

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

62年7月現在 会員数  
274名  
返子地区 178名  
葉山地区 274名  
大船地区 65名  
(合計) (517名)

62年7月号 (180号)  
7月発行 者 根岸 岳萃  
編集 者 中村 愛岳

## 大会追想

大会々長 根岸 岳萃

昨年から準備を重ねてきた碩心会創立五十周年吟道大会が無事終了しました。役員はもとより、会員の皆さんの絶大なる御支援のもと、大成功で、会長として厚く御礼申し上げます。

大会当日、総本部より感謝状を戴きましたが、私自身に戴いた感謝状より、前会長三井先生への感謝状、そして副会長の二人に表彰状が贈られたことを嬉しく思っております。特に表彰状は、今年六月以降実施という、全国に先駆けて戴けたことは幸運でした。

申し訳なかったことは、許証授与が大会の時間按分のため、何時もの温習会の時より略式になってしまったこと、ご寛容下さい。

私は全体的に見ておりましたが、会場に足をふみ入れて先ず目につく受付が、整然としていて、招待者を席に案内、又接待等実にすばらしかったと思っております。又会場係、進行係等大分ご苦勞をかけましたが本当にお疲れ様でした。すべて最高の雰囲気でしたが、この余勢

を駆って百年に向って前進し、質・量共すぐれた碩心会にするより、尚一層の協力をお願いして御礼の言葉と致します。御苦勞様でした。

## 今後も信頼と協力で

大会副会長 加藤 岳相

梅雨空を見上げながら、あゝ大会も終つたと、溜息をつく昨今です。

五年毎に行われる記念大会ですが、顧みれば昨年三月二十九日、常任理事会で会長より発表されて以来、時代の流れに即応した企画、打合せ会議、交渉等と、一年四ヶ月間、役員の方の並々ならぬ尽力、並びに横朗吟道会の石毛、雑賀両先生、労基詩吟同好会の熊沢先生、及び会員皆様の御協力により、碩心会の歴史の一頁に残る記念大会として終了出来ました事を、皆様と共に慶びする次第です。御苦勞様でした。大会に際し、二、三のミスはありましたが、これも今後の教訓として、益々会員相互の親睦を図り、信頼と協力により、碩心会の発展の為に尽力しようではありませんか。

## 大会を顧みて

大会副会長 小峰 桜岳

過日の大会には、会長を中心とした皆様の和の結集によりまして有終の美を飾る事が出来、会員の皆様方に先ず以って御礼申し上げます。

顧りみますと、昨年の四月九日の常任理事会に於きまして、まず開催の日程、大会会場、招待者、準備委員の構成と四部門に分け、以来回を重ねる事十数回、其の間各部長さんが自らタ、キ台を作って慎重に審議し、特に今回は五十周年であり、構成吟碩心会の歩みを立案した次第です。その係りの方々に於ては非常にお骨折を戴き、努力の甲斐あって、来賓の先生方より多大の御好評をいたゞき、五十年の歩みとともに其の一言一句に時の流れを鮮明に思い起し奥歯をかみしめる場面もありました。又受付係をはじめ、各係が行き届き、すべて百点満点である事を自分ながら採点した次第です。

尚姉妹会寒河江吟友会御来賓の先生方も得ること多かつたと喜ばれ、談合の中にも百年来の交友の如く、お互いに会の発展を誓いました。県下の碩心会に止まらず、

東北地方にまで一環のつながりが出来、認められた事と幸いです。

今後共更に会員皆様の御協力を仰ぎ、名の壁を破って更に大きな会に成長し、次期大会に備えようではありませんか。

## 五十周年吟道大会の感激

総括 三井 岳瓏

この大会がかくも、見事に素晴らしい盛會裡に終ったことを、皆様共々誠に同慶に堪えません。

松井岳洋先生が祖宗範木村岳風先生の下に唯々吟道一筋に心魂を注がれ、流統伝承のために、意義深い碩心を会名に附し、会員養成に当られてから五十年：情熱を以って研鑽、スライドに表現された経過と、あの高邁な人格に加えて、健軀に鞭打って、東奔西走された結果がこの成功の第一要因として挙げられます。誠に今更乍ら頭の下る思いに感慨一入です。

又会長根岸先生を助けて、各持場持場の役員の方々が、事前の打合せ準備に心血を注ぎ、よく気を使い走り廻られ、会員の方々もモットーとする和を中心に団結、会の盛り上りに寄与されたことが第二の要因として讃えられます。これ又感激の至りです。

スライド吟詠、立体吟も申し分のない立派なもので、特に前半の初心者の方々の多勢の合吟が力みのない流れる様な吟で私の心を打ち、涙の出る思いでありました。

最後に私事で申し訳ありませんが、この度私のような者が総本部から初めてと承ります感謝状を戴き、諸先輩、中でも根岸会長のお力添えに唯々感激あるのみです。これも各教場のお弟子さん達、碩心会々員各位の吟道に対する熱意御鞭撻のあった賜と厚く御礼上げると共に、更に今後の精進を以ってこのお礼にお答えする覚悟であります。(合掌)

## 総括を担当して

総括 加藤 圭岳

私が碩心会の総務部を55年4月から担当し、この間57年に創立45周年大会、そして今回の50周年記念大会と二回、大会の企画に参画させていたゞきました。

今回の大会開催については、常任理事以上をはじめ、担当役員各位の、並々ならぬお骨折りにより、盛大に終了することができ、ご同慶に堪えません。今大会の準備、運営については総括担当として、60年10月に大会費用の捻出方式から始まり、62年6

月1日の大会運営打合せ会（役員全体会議）まで実に11回の会合を重ねてきました。私は勤務先が東京・青山で、二時間程通勤時間を要するため、会合の都度、一時間近く勤務の早退を余儀なくされたこともしばしば。

又準備段階では、総括の任務について、副会長加藤岳相先生には種々適切な助言と協力をいただき感謝している次第です。

式典の運営については一番気遣いをしてはと、勤務の多忙な時期と重なったため、前日の十三日夜要領の原稿作成にとりかかり出来上がったのが一時半、五年前の大会には所要時間が長すぎるとの批判を受けたので今回は一時間の制限時間の中で盛り沢山の項目を消化しなければならず、作成したタイムスケジュールにより進化した結果、55分で終了することができ、ホッとしました。今大会の準備と運営に、役員はじめ、会員各位が協力、苦勞してなし得た、五十周年大会の記念すべき事業は、会員一人ひとり思い出として、又傾心会の歴史の一頁として刻まれることと思います。

## 役割分担で手ぎわよく

受付（来賓） 中村 愛岳

各役員の方からの原稿を書き写して、皆さんが大役を果し、盛会に終り、如何にホッとなさったかが、ひしひしと伝わってきて、ほんとうに御苦勞様のひと言です。準備委員（招待係）としての段階では、私以下八名で招待状の原案、印刷、発送、プロ案内状、終了後の礼状作成等の担当と、今回は姉妹会なる寒河江吟友会御招待に關し、宿舍の配慮、翌日の觀光案内の懸案等総括と連絡をとりながら行いました。

又大会当日は受付（来賓係）を九名で担当し、更に案内、胸章、記念品、祝儀係と役割分担しましたが、進行札係として、もう二名程ほしいと思えました。記念品の当日到着段階での配分は非常に忙しいひとときであったが、前以って各部門別に分りやすく招待者名簿を作成しておき、用意していた名札を手ぎわよく袋につけ、部門別に配列、いらしたらすくお渡し出来るよう配慮し、スムーズに進行しました。

会員受付は比較的早くすんだようですが招待受付は全員お見えになる迄、案内席をはなれられず、会場内の雰囲気も正直のところ全然つかめずちょっと残念。その点、後日慰勞会でのスライド再映写は、いい思い付きで助かりました。

## スムーズに終わった 会員受付

受付（会員） 千葉 香岳

会員受付担当は十人。プログラム順に三ブロックに分け、開館と同時に受付を開始致しました。

会員の皆さんは、御自分の順番にかかわらず、早くからご来館下さり、殆んどの方が、出吟番号を覚えていられたので、誠にスムーズに作業はかどおり、十一時には終了致しました。御協力有難うございました。

## 進行係の状況

進行 千葉 剣岳

大会当日に近い六月に入り、総括として取りまとめられる総合的な打合せ会議もたれ、ここで進行に係る各関連諸係との連繫、関連性も明確に把握され、また相互に理解を深めていたこと、加えてこの会議に事情があつて欠席した係の人達のため、打合せ結果、その他の参考事項をプリントして事前に配布、研究して頂いていたことなどもあつて、当日は大変スムーズに進行運営ができていたのではないかと自讃しているところである。勿論要の進行が、ほぼ予

定に従って運営されたことは、すべての係が、最大限協力して頂いたことに因があることは当然のことであり、御同慶の至りと言わねばなるまい。

さて少々反省をこめて将来に残さねばならない一言、二言を。先ず進行開始十五分の遅れ：これは会館側の強い要求で、開幕不可能であったこと。十時開幕を主張されて困惑したのであった。あらかじめプログラムの開始時間は、こうした関係部門との綿密な打合せ結果で定めねばならないと痛感した次第。次に開幕前の舞台裏での大騒動、電光掲示板のコード不足で、操作不可能となり、あわや口頭で読上げ、進行決意したところ、幸か不幸か、会館の十五分遅らせ強制で、その間にコードが買えたという笑えない事実があった。当日以前に明確に引渡し責任を明らかにし、操作点検はすべて完了しておかなければならない教訓を得たのである。

## プロ企画と構成吟の演出

連絡 中村 幸岳

当日は連絡の長となりましたが、構成吟の演出も担当したので、私は専らステージの準備、会館職員との打合せが多く、南部

政岳さん他の皆さんにお願いしました。開会時よりの約20分の遅れが仲々挽回出来なく、これ以上の遅れは許されないと連絡係としての気遣いを痛感しました。

三時にやっと昼食をとり、受付係が解散後、受付票が全部進行係に渡っていることを確認した時、これで役目を終ったとホッとしたものです。

今回は特に、受付・進行・会場の各係の連携が素晴らしかった。連絡係は不馴れな会場のため、又来賓への気配りが多かったが、皆さんに協力していただき感謝しております。

準備段階ではプログラム企画編集を担当五十周年という節目ということで、係の皆さんの知恵を集めました。が、変り映えのしないプロという結果となり、完成までの経過については総てを記録しておきましたので、次回の参考になればと総括担当に報告しておきます。

## 万全の準備と

## 各係の連携を痛感

会場 竹石 憲岳

五十周年記念吟道大会の会場係責任者を仰せつかり、責任の重且つ大なるを痛感さ

せられ、約一年前から準備に入った。先ず第一に会場の確認ですが、五百人以上収容の会館は豆子・葉山には無く、隣接地鎌倉横須賀市で三候補会館を選定し、その中から更に第一候補として衣笠のはまゆう会館に交通の便、その他での絞ることになりました。根岸会長・加藤副会長の御尽力で半年位前に横須賀市の使用許可を得る結果に至りました。ために会場抽選などに出る事もなく、予定日の会館使用確保は至難といわれている折、ひと安心となった次第であります。

準備の大きな仕事からあげますと、舞台中央看板、玄関看板の揮毫を誰に依頼するかの問題も、結論は看板業者と決り、県本部役員でその職におられる人に依頼し、早く安く完成した。次は舞台へ飾る籠花、贈呈用花束の手配も同様に依頼した。これらも根岸会長・加藤副会長の御指示、御協力によるものであった。又進行用電光掲示板、宗範遺影の置台の準備も、県本部青少年大会終了後、加藤圭岳総括の御協力で小生宅に置いた。各種表示板の揮毫も小生の仕事となり、とりわけ来賓席指定の名札書きも手間のかゝる仕事であった。その他こまかい備品・器具・消耗品の準備も着々と進みいよいよ会場の下見、会館側との打合せも

二回行った。

さて待望の大会当日の朝となった。吉井道山会場係の車が7時20分頃小生宅に到着し、準備してあった備品、器具を積み、石渡桂岳宅へ寄り華道の道具を積み会場へ向った。途中盆栽も積み会場到着は8時10分頃であった。

ホール開場は9時で時間厳守のため気があせるばかりであった。30分での舞台準備は非常に忙がしく、会場係一同の機敏な働きで早く準備が出来たが、失敗は進行用表示板の電源コードが箱に入っていないくて会館職員の協力でスタートすることが出来た。当会としては初めてこの表示板を使用したので手落ちのあったことを反省させられた。あとは構成吟、式典の準備と進み、大会終了後の後始末、道具運搬で大任を一応果たすことが出来た。

会場係一同の協力、連絡係の来賓者指定席名札の取付けの御協力には心からお礼申しあげます。

大会の成功を期するには、万全の準備と各係の縦・横の連携を密にすることが最も重要であることを痛感しました。

今回の大会で小生の見た感じを少し申し上げます。舞台の飾り花を二対にしたため非常に舞台感覚がよかったと思いました。

又当初初めての企画である構成吟の中のスライド吟詠「傾心会の歩み」も大会を盛り上げた一つであり、企画に努力された関係者に感謝いたします。又舞台片隅にいて書道吟を見ておりましたところ、書をおやりになる当会名誉会長は靴をぬがれて靴下だけで舞台に出られ、眼光鋭く氣迫をこめて書に対処されたその態度は、昔の武士が真剣勝負をするその態度であり、実に感服いたしました。

以上で会場係としての報告と感想を申し上げ、次回五十五周年吟道大会の盛会に向けて今日から前進してゆくものであります。

### なれぬ会場での苦労

接待 沼田 洗岳

創立五十周年記念大会も、皆々様の絶大なる御協力に依り、盛大に出来ました事御同慶に堪えません。さて私達接待係12名、(一欠)皆張切って、まず仕事始めは各支部への弁当配布、又湯沸しは二手に別れて始めた。しかし当館は初めてのことにて館内不案内のため非常に苦労がありました。遠い一階の湯沸所より両手に重いポットを持って額に汗いっぱい、又お客様に一生懸命お茶とコーヒーのサービスに余念なく、最初

のうちは張切っていたが、次第に疲れてきたのか一段一段上る階段の高さが身にこたえたようだ。開会から何キロ歩いたことになるかネ…などの話も出る有様。でも最後まで事故もなく、良く頑張って頂き有難うの一言…。感謝の気持ちでペンを置く。

### 皆さんの熱意に 感心するばかり

記録 鈴木 萃岳

遠方の為か比較的楽な記録に回り、今度の大会には余り積極的に協力出来なかつた事申し訳なく思っております。みんなの力で大会を無事にすませた事は何よりの収穫ではないでしょうか。

人はそれぞれに環境、生活等で思うにまかせぬ時があります。私も現在のところ、自分自身暇がありません。皆さんの熱意には感心するばかりですが、吟友の一員として頑張る所存です。

簡単な感想文ですが、記録の皆さん御苦勞様でした。

### 無事故に感謝

救護 森田 暁岳

朝の中雨を気にしていたが梅雨晴れと

った六月十四日、一年半前から企画されていた、わが傾心会五十周年記念大会が衣笠はまゆう会館で開催されました。

各部の先生役員は早朝より会館に集合して準備にかかり、定刻に開始する事が出来ました。総本部・県本部、又遠く山形寒河江吟友会、其の他多数の来賓の先生方の御臨席を賜り、会場は立錐の余地も無い程で、盛会裡に終了出来ました。

私も救護係を受持つておりましたが、一件の事故もなく終了出来た事を心から感謝し、無事をお祝い申し上げます。皆様の御苦勞を心から御礼申し上げます。

### 私事をはなれた協力に感謝

会計 秋元 梁岳

事もなく、而も、予算内で大会を終了出来ましたこと、会計として此の上もないよろこびです。是も会員の皆様、ことに役員各係の先生方の私事をはなれた御協力と無駄のないようにと細心の注意をして戴いた結果に外ならず、ここに御礼を申し上げると共に、別表に依り、決算の報告をさせていただきます。

## 創立50周年吟道大会収支決算報告書

傾心会会計部

収入部	金額	摘要
科目		
積立金	1,300,250	月@150×延8612名・①月@50×延169名
補助金	150,000	特別会計(教本頒布手数料等)より
雑収入	400,250	祝儀389,000・(59口内会員1名含)・預金利子11,250
合計	1,850,500	
	○物品……………	祝花1基
	○反省会……………	清酒3本 根岸会長
支出部	金額	摘要
区分		
総括	286,743	会議会場費・祝花・謝礼・コピー・寒河江会員宿泊費其の他
プロ	166,280	印刷・会場費・スライド製作・コピー・其の他
会場	84,230	はまゆう会館借用代・看板揮毫代・下見交通費・其の他
記念品	647,915	準備会場費・交通費・物品代・弁当代其の他
招待	121,250	招待状印刷発送・会場費・寒河江会員招待各経費
接待	260,651	酒肴品代・卓上飾花・茶コーヒー・其の他
反省会	170,570	会館借用代・慰勞酒肴品代・其の他
小計	1,737,639	
収支差	112,861	
合計	1,850,500	

上記のとおり報告致します。

昭和62年7月5日

大会会計・井沢潮岳◎・秋元梁岳◎・行谷佳風◎・岡野和風◎

## 吟に合せて活ける緊張感

華道 岩崎 恵岳

華道吟の活ける部門を受持つ事になりました。定められた時間内にとどの様に配分して活けるかがむずかしく、ゆっくり活けるのに苦勞。あまり間が開き過ぎて、急いでも良くなく、活ける人が心を合せて、同時に終らなければいけないので、吟を聞き乍ら、手を動かす事に神経を使いました。リハーサルの時より時間が短く感じたことは、やはり緊張していたのかも知れません。最後の吟を聞いた時はホッと肩の荷がありました。

## 詩舞をやらせていただきたい

詩舞 綾部 秋岳

この度記念すべき創立五十周年大会の構成吟、詩舞の部に参加させて頂きました。私なりにそれぞれの詩舞で心に残ったことがあります。第一番目の「森戸懐古」は森戸の浜の景色がくっきりと目に浮びました。次の「田越川秘唱」は自分が舞っていたので、出来具合はよく分りませんでした。精一杯舞わせていたよかったです。この構成

にあたりましては、千葉佳香先生の御指導の賜と思います。又静御前はさすがに小林先生：私がかからやっけていくうえにもとても参考に成り、又良い勉強となりました。書華道吟はさすがにベテラン揃いですが、らしいのひと言でした。松井先生の書に、根岸先生の吟の書道吟には大いに感激、そして出来上った書の傍に一輪の花を捧げるという演出に、奇しくも私ごととき者をやらせていただき一生の思い出となりました。本当にありがとうございます。

## 又とない機会に力入る

華道吟 村田 静岳

根岸先生より華道吟をまとめる様にとのお話があり、伊藤峰岳、立沢御風、寺脇歌風、三壁照風、大坪孝山、村田静岳の六人がえらばれました。

桜山会館を借りて、毎週土曜日夜集まって練習しようという事になり、先ず各自の受持つ吟をきめ、各自で勉強したのを、集まった時に合わせ練習しました。

五十周年大会：又とない行事なので、私達も一段と力が入りました。着るものも何にしようかと相談の結果、衆議一決、着物に袴をつけようよかったです。その時の

姿など想像しながら…。

リハーサルでは大失敗を演じ、松井先生からも、マイクの前に立つ時の注意などいただき、吟だけでなく、マイクの前に順序よく立つ練習もし、最後には大いに気合が入りました。

いよいよ当日、根岸先生の書道吟が入るので音が下らないかと心配しましたが、先ず私達としては上出来だったと自讃しています。皆様の御協力有難うございました。

## はじめ

### ナレーターを受持つて

ナレーター 佐久間 爽風

ナレーターをつとめることは、初めてのことであり、五十周年記念大会の為にと考えると、実に心には重いことでした。

同じ滝の坂教室の西山春山と二人で、幾夜もテープに吹きこみながら、試行錯誤を重ねました。ナレーションとして注意したことは、文章の意味を強めて訴えたい時は低い発音にする。内容が変わる場合は声の調子を変える。文の余韻を大切にすることを句読点で「間」を充分に取る。吟の二句三息と同じ呼吸で、一気に読み下すことも必要。その他イントネーションなど、むずかしいことばかりでした。

右のようなことを心に刻みこんで、大会

当日の朝は齋戒沐浴のつもりで身を淨め、会場に望みました。

スライドによる「碩心会のあゆみ」は、歴史を作って来られた方々の中に、亡き主人の溪岳も嬉しそうな顔で写っており、感無量でございました。松井先生の書は、心を洗われる思いで拝見し、御立派な先生方に恵まれ、五十周年大会に廻り合せた幸福を今かみしめております。

### この感激を後輩に伝えよう

進行（運行諸係）松井正風

碩心会会員全員が待ちに待った記念大会。準備・構成・吟の練習にと時間をかけてきただけに、とても素晴らしい、他の会に誇れる大会であったと思います。

私自身が碩心会の創設された年と同じ年の生まれであるだけに、会の長い歴史、運営、そして歴史ある会を存続させる為に、現在の会員である私達には想像出来ないご苦労をされた大先輩の先生方に、あらためて、会員の皆様と共に感謝申し上げなければとつくづく思いました。

今回は進行係といった大事な役を頂き、少しでも今の為に役立ちたい、招待の先生方に失礼のない様にと、大変な緊張の連続

でした。最後迄客席から舞台を見る時間がなかったのが一寸残念でした。

今回の五十周年大会は、長い歴史の一頁であったかも知れませんが、皆様と共に、この大会に参加できた倅せと、感激を将来の人達に伝えてゆくことが私達会員の務めであると痛感致しました。

碩心会の創設者である父には、声の出る限り吟を続けて頂きたい。そして私達をいつまでも指導してほしいと思えました。

◇松井正風・吉井道山のお二人には、車で関係諸道具の運搬その他、大変お骨折りたどきました。ほんとうに御苦労様でした。

### 50周年記念吟道大会雑詠

松和 宇都宮徳風

◇会員吟詠（合吟に初出場して）  
新人をまとめ初めて出場す

無事に終るも吾は励ます（禿増す）  
◇構成吟大好評

見事なり五十周年大会の  
構成吟に皆酔いにけり

◇式典豪華招待吟詠絢爛  
（碩心会は）

有難し五十周年大会に  
学院幹部 皆御臨席

（他の会は）

今日だけは大会式典選けるらん

学院幹部 皆留守だから

◇理事長・会長・役員へ感謝状贈呈

撓まざる碩心会への御尽力

その御苦労にいくら謝しても

◇許証代表受領

晴がまし五十周年大会に

許証受領で壇に上るは

### 横須賀 吟道大会終る 第二地区

梅雨晴れの6月21日(日)鎌倉市中央公民館分館に於て行われ、碩心会からは左記の通り出吟（演）が参加しました。

独吟：14題 合吟：21題 詩舞：3題

コンクール：4組（真澄支部五位入賞）

役員吟詠：3題

（入会）

806 芹田千津子 葉山町一色一七五〇一

（一色A） 築山エコーハイツ二二三

（電）〇四六八一七五〇六六一〇

（退会）

198 鷺山秋風（一色A） 237 角田梅風（一色A）

554 関沢美山（上原） 594 行谷昭泉（上原）

771 長谷川千恵子（堀内・F）